

令和3年度 第二中学校区地域包括支援センター事業実施評価票

| 実施方針 | 目標   | 具体的な取り組み  | 実績   | 評価   |   | 課題・今後の方向性 |   |
|------|--|---|--|--|---|-----------|---|
|      |  |   |  | 取組毎の評価   | 方針毎の評価                                      |           |   |
| 必須項目 | 高齢者を地域で支える体制づくり                                    | 行政・生活支援コーディネーター・地域包括支援センターとで「地域づくり連絡会」を開催。<br>ゴミ出し困難者や外出支援についての情報共有を行い、地域にどのような働きかけができるか共同で検討する。  | 年4回：6月・8月・10月・12月<br>6月：保健福祉計画の確認<br>8月：ゴミ出し困難者や外出支援の状況確認<br>10月：地域に向けてどんな働きかけができるか検討<br>12月：次年度に向けてまとめ  | 年4回の予定が緊急事態宣言などもあり2回開催。地域づくり連絡会の形態ではないが、情報共有等は行い、生活支援をつなぐ会参加などに繋がった。   | ○   | ○         | SCとは適宜話し合いの機会を持ち、地域課題の共有が行えているため、今後も連携を図れるようにしていく。  |
|      |  | しまとれの継続支援と取り組みのない地域への働きかけを行い、地域住民が主体となって介護予防に取り組めるようにする。  | 継続支援：16ヶ所<br>新規立ち上げ：2ヶ所（中央町や松葉町にて新規立ち上げができるように働きかける）   | 新規しまとれ1カ所開設（七丁目）<br>コロナ禍で休止することもある中、継続した支援を行った。  | △   | ○         | コロナ禍で、新規立ち上げは難しいが、今後も今ある所の継続ができるよう支援をしていく。  |
|      | 高齢者が介護予防に主体的に取り組んだり、住み慣れた地域で安心して過ごしていける体制づくりを支援します | 地域の課題を地域づくりや政策形成に結びつけていくために地域ケア会議を開催する。<br>重点テーマ<br>「独居や高齢世帯向けに『情報提供書』を作成し、緊急時の連絡先や状況が分かるように緊急時でも速やかに連絡が取れる体制を作る。」<br>島田市主任ケアマネ連絡会の防災委員と共同して計画を立て、試験運用を行っていく。 | 独居・高齢世帯の緊急時の取り組み<br>今年度は一部の方で試験運用を行い、評価していく。<br><br>7月民児協にて説明<br>7月後半より対象者に『情報提供書』配布<br>8月から1月まで試験運用<br>2月試験運用の評価票の集計を行う<br>3月集計結果から、課題を導き出し、次年度事業につなげていく。 | 当初予定より2カ月遅れて試験運用開始。運用数も少ない為、運用期間を延ばして対応する。3月にモニタリングを行い、次年度に継続していく。   | △   | ○         | 試験運用は開始できた。運用数が少ない為、当初予定の期間では評価に至れないと判断し年度をまたいでの計画として継続していく。  |
|      | 認知症施策の推進   | チームオレんじ「ぎずな」の活動として企業と連携して認知症予防や介護予防についてリモートで地域をつなぎ情報発信を行う。  | 年2回活動（旗指・上野田・落合などをリモートでつなぐ）<br>10月：企画<br>12月・2月：実施   | 今年度も第一生命の協力のもと、居場所やしまたれ会場とオレんじカフェをつなぐ活動が行えた。   | ◎   | ○         | リモートでの活動を継続して支援していく。  |
|      | 認知症になって暮らしやすい地域のサポート体制を整える。                        | 認知症患者や介護者及び地域の方が気軽に相談できる機会を作る<br><br>第二中学校区の企業を中心に認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年3回実施をする。   | 出張相談会の開催場所と方法を検討する。<br>しまとれ実施場所への出張相談会を試験運用する。<br>アンケート実施・出張相談の評価を行う。<br><br>15事業所へ講座案内を配布するとともに講座開催を年3回実施する。  | しまとれ実施場所ではないが、大草住宅にて月1回開催中している。<br><br>小・中学校にてサポーター養成講座開催。事業所に対しての啓発活動をしていく。   | ◎   | ○         | 新たな課題が見えてきているため、CSと協力して取り組んでいく。また他の地域でも開催できるようにしていく。<br><br>コロナ禍で集合でのサポーター養成講座が難しいこともあるので、リモート開催など適宜対応できるようにしていく。 |
|      | 多職種、多機関とのネットワーク構築                                  | 共生社会を目指すため、多職種・多機関との連携強化に努めます。  | 専門職による情報共有や連携向上を目的とした勉強会をリモートにて開催する。   | 12月より毎月zoomを使い専門職の勉強会開催。   | ○   | ○         | 顔の見える関係づくりの役割もあるため、次年度も継続していく。  |
| 選択項目 | センターの認知度を高めるための周知活動                                | 住民にとって身近な相談窓口となるように、積極的に地域に出向き周知活動を行います   | 第二中学校区地域包括支援センター独自のお便りを作成し、地域の事業所や各種団体の講座開催時などに配布し周知を促す。   | 年1回発行する  | ○   | ○         | 次年度は包括での活動紹介などのチラシの作成等引き続き周知活動をしていく。  |
|      | 介護支援専門員に対する連携体制づくりと実践力向上支援                         | 地域における関係機関等との連携体制づくりや介護支援専門員との連携強化を進めます。  | ケアマネ連絡会を開催し、地区のケアマネジャーとの連携、適切なマネジメントを支援する。   | 連絡会 年3回<br>7月 令和3年度の島田市の総合事業の確認及び市との情報交換<br>10月 居宅介護支援事業所連絡会<br>11月 ゆきはな診療所との情報交換（zoom開催）<br>居宅介護支援事業所連絡会<br>困難事例検討と情報交換<br>居宅介護支援事業所連絡会 | 医療連携や自立に向けたケアマネジメントについて、勉強ができた。リモートの開催も行えた。 | ◎         | ◎   |